

視聴覚教育

メディア論

# 肌で感じる明学空間ツアー

【テーマ】

目には見えないけれど当たり前にある「空気」。触覚・嗅覚に集中して明治学院大学内の4つの空間を巡り、匂い・心地等の違いを味わってみましょう。

対象：日常の些細な違いを楽しみたい人（どなたでも）

企画の背景：普段意識することのない「空気」を触覚、嗅覚で感じ、日々見逃しがちな些細な違いを楽しんでもらいたい。同時にチャペルという祈りの空間を体感し明治学院大学特有の「空気」を味わってもらいたい。



本館 1358 教室

## ① いつもの「教室」という空間

51人を収容できる「教室」という空間。黒板に向かい机と椅子が並ぶ造りはほぼ全ての「教室」の共通点でしょう。この場を基準に②～④の空間を体験しましょう。

黒板は1872（明治5）年にアメリカから初めて持ち込まれた。1863年（文久3）創立の明学は当初どんな風に学んでいたのだろうか？



食堂 出典: 明治学院大学公式ホームページ

## ② 和気藹々に暖かな食事

多くの学生が昼食を食べる食堂。常に低い温度と湿度が保たれた空間はカラッとして匂いの広がりを抑え、快適な団欒の場を提供します。

点線の部分は仕切り。友達とテーブルを囲み話したい人、1人でゆっくりしたい人、それぞれに適した空間を作り出す。

## ③ 静謐×荘厳、響く音色

1916(大正5)年竣工のチャペル。天井の高い大空間にオルガンの音色が響き渡ります。置かれている椅子同士の間隔は約30cmと近く、ケヤキなどの匂いと冷感を強く感じます。

なんと教室の34倍の大きさ！その迫りに圧倒される。



チャペル(明治学院礼拝堂) 出典: 明治学院大学公式ホームページ

## ④ 暖かな小部屋、橙の優しさ

1890(明治23)年竣工の小チャペル。窓が閉じた多角形の小空間には木の穏やかな匂いが少し重たく立ち込めます。

大きさは教室の3倍。温白色のぼんやりとした光の中、自然と肩の力が抜けていく。



小チャペル(明治学院記念館) 出典: 明治学院大学公式ホームページ